

KOYO LATIN AMERICA S. A.

- 光洋ラテンアメリカ, K L A -

1. 会社概要

社名 KOYO LATIN AMERICA S. A.
 所在地 事務所 - パナマ市(太平洋側)
 倉庫 - コロンフリーゾーン
 (カリブ海側)
 創立 1972年9月
 資本金 2.5百万ドル
 従業員 40人
 業種 転がり軸受および関連製品の輸出版売



2. 地域の紹介

1999年末、パナマ運河は米国の管理から全面的にパナマに返還されました。当初、米国人がいなくなったらパナマ人に運河の運営は無理かも知れないと言われていましたが、返還後のパナマは政治と社会の安定度が増しています。運河の通行料収入は半年で4億3800万ドルです。

返還されたのは運河だけではありません。関連する地域および水域の総面積は14.74km²、建物数は15000戸に上り、これらすべてが米国からパナマに返還されました。この返還資産の中には、飛行場、病院、事務所、スポーツ施設、娯楽施設、公共機関用施設が多数含まれています。これらの返還地域の再開発が着々と進められており、パナマも大きく変わりつつあります。



パナマ市街

パナマは独立記念日が2回あります。1821年コロンビアの一州としてスペインより独立した日と、1903年米国の支援を受けてコロンビアより独

立した日です。人口は272万人、首都のパナマ市には68万人が住んでいます。国土の面積は7万7千km²であり、これは北海道よりやや狭い広さです。

言語はスペイン語ですが、カリブ海から移り住んだ人達の影響で英語もかなり通じ、会話の中では英語が混じって使われています。パナマ人は他の中南米諸国の人とは違い、サービス精神が少ない国民性ですが、運河が返還されてからは変わってきているように感じます。観光にも力を入れており、亜熱帯であるパナマの密林を利用したジャングルツアーや川下りなどがあります。

1999年10月現在、登録されている日本の会社は40社で、日本人総数は約400名でした。しかし1999年中南米諸国の不景気のおりを受け、パナマから撤退を決めた会社があり、日本人が減る傾向にあります。日本人学校はパナマ市内にありますが、現在生徒数約30名と非常に少なくなっています。日本の会社が撤退していくのとは反対に、台湾、メキシコ、米国などの投資が増加傾向にあることは注目に値します。

この投資の中に、我々が倉庫を持っているコロンフリーゾーンがあるカリブ海側におけるコンテナ港への積極的な投資(総額4億ドル超)があり、ここには中南米では最先端の設備を持つコンテナターミナルの建設が進んでいます。1994年に14万個であったコンテナ取扱量が、1998年には100万個(T E U20フィート換算)に達し、中南米1位のコンテナ取扱量を持つに至っています。2001年には運河に平行して鉄道が開通する予定で、鉄道を使ってのコンテナ輸送が計画されており、さらにコンテナの取扱量が増える予定です。

現在の運河は閘門サイズから6万トン規模の船しか運行できませんが、運河の近代化プロジェクトにより計7億ドルが投資されて、船舶の双方向通行を可能とする拡幅工事が2002年には完成する予定です。また、15万トンクラスの大型船を通行可能にする「第3閘門」建設のマスタープランも作られており、将来的に世界的に重要な貿易基地となることは確実です。



パナマ運河を通る船をけん引する機関車

3. 会社の紹介

当社は1972年に中南米市場での拡販のため、コロンフリーゾーンに設立されました。コロンフリーゾーンは設立当時の規模から拡張され、その後当社は同じフリーゾーン内のフランスフィールド地区に移転しました。

設立当初進出した場所には、現在きれいな商店が並んで観光客が買い物をしています。移転したフランスフィールド地区は、再輸出を目的としたコンテナを直接つけられる大型の倉庫が立ち並んでいます。その一角に当社の倉庫があります。日本から到着した商品を無税で入荷し、その後中南米諸国に再輸出しています。20年前には軸受メーカー4社がフリーゾーンに倉庫を持っていましたが、1980年代後半のパナマ政治・経済危機の中で2社が撤退し、当社を含めて2社だけが現在も倉庫を持っています。



K L A

4. 今後の展望

フリーゾーンでの貨物の取扱量は1996年がピークであり、1999年はブラジルの景気の停滞などの影響で最盛期から約20%低下しました。しかし1999年が底との見方が強いので、今後中南米諸国への販売は増加の傾向にあると思います。

当社もこの流れに乗れるようにさらに顧客へのサービスを充実させるとともに、パナマ人従業員を増やすなど、パナマ社会に少しでも貢献できる企業として活躍し発展していきたいと思います。

しかしながら、顧客も在庫を最小限に抑えるようになり、出荷の単位も小さくなってきており、これにどう対応するかが今後の課題です。当社はバーコードシステムを導入し、顧客の要求を満足させていく考えです。

価格面でも日本製の後には韓国製、中国製、台湾製などの安価な軸受が迫ってきています。不景気な中南米では安ければ良いとの見方が多いので、確実にこれらの軸受の進出が見えています。これにもどう対処するかが、今後の課題です。

(光洋ラテンアメリカ 白田一寿)